

研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程

第1章 総則

第1条 (趣旨)

この規程は、株式会社ウェザーニューズにおける公的資金、公的研究費若しくは公的助成金、補助金等(以下「公的資金」という)を用いた研究活動において、研究活動上の不正行為ならびに公的資金の不正使用(以下「研究活動上の不正行為」という。)の防止及び不正が生じた場合における適正な対応について必要な事項を定める。

第2条 (内部通報に関する規程との関係)

研究活動上の不正行為における告発の受付窓口並びに調査手続きに関し必要な事項は「内部通報に関する規程」によらず、本規程にて定める。

第3条 (定義)

1. この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1)研究活動上の不正行為

- ① 故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったこと による、捏造、改ざん、又は盗用。
 - ・捏造:存在しないデータ、研究結果等を作成すること
 - ・改ざん:研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること
 - ・盗用:他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を当該研究者の了解または適切な表示なく流用すること
- ② ①以外の研究活動上の不適切な行為であって、科学者の行動規範及び社会通念に照らして研究者倫理からの逸脱の程度が甚だしいもの

(2)公的資金の不正使用

公的資金の適正な運営および管理に関する関係法令、配分機関が定めるルールならびに株式会社ウェザーニューズの諸規程に違反して、研究者等が公的資金を使用すること

(3)研究者等

株式会社ウェザーニューズに雇用されている者及び株式会社ウェザーニューズの施設や設備を利用している者のうち、公的資金を用いた研究に従事している者又は携わる者

(4)部局

株式会社ウェザーニューズの組織規程に定めるチームのうち、公的資金を用いた研究に従事している部局

第4条 (研究者等の責務)

1. 研究者等は、研究活動上の不正行為や公的資金の不正使用、その他の不適切な行為を行ってはならず、また、他者による不正行為の防止に努めなければならない。
2. 研究者等は、研究者倫理及び研究活動に係る法令等に関する研修又は科目等を受講しなければならない。
3. 研究者等は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担保するため、実験・観察記録ノート、実験データその他の研究資料等を10年間、適切に保存・管理し、開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示しなければならない。

第2章 不正防止のための体制

第5条 (総括責任者)

代表取締役社長は、研究倫理の向上及び不正行為の防止等に関し、法人全体を統括する権限と責任を有する者として、公正な研究活動を推進するために適切な措置を講じるものとする。

第6条 (部局責任者)

第3条第1項第4号に規定する部局の長は、当該部局における研究倫理の向上及び不正行為の防止等に関する責任者として、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じるものとする。

第7条 (研究倫理教育責任者)

1. 代表取締役社長は、研究者等に対する研究倫理教育について実質的な責任と権限を持つ者として研究倫理教育責任者を置き、天気街理事長(サービス運営部門責任者)を充てるものとする。
2. 研究倫理教育責任者は、第3条第1項第4号に規定する部局に所属する研究者等に対し、研究者倫理に関する教育を定期的に行わなければならない。

第8条 (関係者の意識向上)

1. 公的資金による研究開始時に、公的資金の運営・管理に関わる全ての構成員に本規程及び「研究機関における公的資金の管理・監査のガイドライン」を用いて教育する。
2. 前1項教育後に理解度把握テスト等を実施することで理解度を深めさせる。
3. 前2項実施後に公的資金の運営・管理に関わる全ての構成員に別添1の誓約書に記名押印し、サービス統括責任者へ提出する。
4. 教育についてはHR-Center(人事部門)を事務局として実施する。

第9条 (ルールの周知と見直し)

1. 公的資金の運営・管理及び事務手続きに関してはサービス統括主責任者が統括し、ルールの明確化及び統一的な運用を図るとともにルールと運用が実態と乖離していないかチェックし必要に応じ見直しを行う。
2. サービス統括責任者は、ルールの全体像を体系化し、公的資金の運営・管理及び事務手続きに関わる全ての従業員に周知する。

第3章 告発の受付

第10条 (告発の受付窓口)

告発又は相談への迅速かつ適切な対応を行うため、HR-Center(総務部門)に受付窓口を置くものとする(以下「告発窓口」という。)

第11条 (告発の受付体制)

1. 研究活動上の不正行為の疑いがあると思料する者は、何人も、書面、電子メール、電話又は面談により、告発窓口に対して告発を行うことができる。
2. 告発は、原則として、顕名により、研究活動上の不正行為を行ったとする研究者又は研究グループ等の氏名又は名称、研究活動上の不正行為の態様その他事案の内容が明示され、かつ、不正とする合理的理由が示されていないなければならない。
3. 告発窓口の責任者は、匿名による告発について、必要と認める場合には、代表取締役社長と協議の上、これを受け付けることができる。
4. 告発窓口の責任者は、告発を受け付けたときは、速やかに、代表取締役社長に報告するものとする。代表取締役社長は、当該告発に係る部局責任者等に、その内容を通知するものとする。

5. 告発窓口の責任者は、告発が郵便による場合など、当該告発が受け付けられたかどうかについて告発者が知り得ない場合には、告発が匿名による場合を除き、告発者に受け付けた旨を通知するものとする。
6. 新聞等の報道機関、研究者コミュニティ又はインターネット等により、不正行為の疑いが指摘された場合(研究活動上の不正行為を行ったとする研究者又は研究グループ等の氏名又は名称、研究活動上の不正行為の態様その他事案の内容が明示され、かつ、不正とする合理的理由が示されている場合に限る。)は、代表取締役社長は、これを匿名の告発に準じて取り扱うことができる。

第12条 (告発の相談)

1. 研究活動上の不正行為の疑いがあると思料する者で、告発の是非や手続について疑問がある者は、告発窓口に対して相談をすることができる。
2. 告発の意思を明示しない相談があったときは、告発窓口は、その内容を確認して相当の理由があると認めるときは、相談者に対して告発の意思の有無を確認するものとする。
3. 相談の内容が、研究活動上の不正行為が行われようとしている、又は研究活動上の不正行為を求められている等であるときは、告発窓口の責任者は、代表取締役社長に報告するものとする。
4. 第3項の報告があったときは、代表取締役社長は、その内容を確認し、相当の理由があると認めるときは、その報告内容に関係する者に対して警告を行うものとする。

第13条 (告発窓口の職員の義務)

1. 告発の受付に当たっては、告発窓口の職員は、告発者及び被告発者の秘密の遵守その他告発者及び被告発者の保護を徹底しなければならない。
2. 告発窓口の職員は、告発を受け付けるに際し、面談による場合は個室にて実施し、書面、ファクシミリ、電子メール、電話等による場合はその内容を他の者が同時及び事後に見聞できないような措置を講ずるなど、適切な方法で実施しなければならない。
3. 前2項の規定は、告発の相談についても準用する。

第4章 関係者の取扱い

第14条 (秘密保護義務)

1. この規程に定める業務に携わる全ての者は、業務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。職員等でなくなった後も、同様とする。
2. 代表取締役社長は、告発者、被告発者、告発内容、調査内容及び調査経過について、調査結果の公表に至るまで、告発者及び被告発者の意に反して外部に漏洩しないよう、これらの秘密の保持を徹底しなければならない。
3. 代表取締役社長は、当該告発に係る事案が外部に漏洩した場合は、告発者及び被告発者の了解を得て、調査中にかかわらず、調査事案について公に説明することができる。ただし、告発者又は被告発者の責に帰すべき事由により漏洩したときは、当該者の了解は不要とする。
4. 代表取締役社長又はその他の関係者は、告発者、被告発者、調査協力者又は関係者に連絡又は通知をするときは、告発者、被告発者、調査協力者及び関係者等の人権、名誉及びプライバシー等を侵害することのないように、配慮しなければならない。

第15条 (告発者の保護)

1. 天気街理事長(サービス運営部門責任者)は、告発をしたことを理由とする当該告発者の職場環境の悪化や差別待遇が起きないようにするために、適切な措置を講じなければならない。
2. 株式会社ウェザーニューズに所属する全ての者は、告発をしたことを理由として、当該告発者に対して不利益な取扱いをしてはならない。
3. 代表取締役社長は、告発者に対して不利益な取扱いを行った者がいた場合は、就業規則及び賞罰委員会規程に従って、その者に対して処分を課すことができる。

4. 代表取締役社長は、悪意に基づく告発であることが判明しない限り、単に告発したことを理由に当該告発者に対して解雇、配置換え、懲戒処分、降格、減給その他当該告発者に不利益な措置等を行ってはならない。

第16条（被告発者の保護）

1. 株式会社ウェザーニューズに所属する全ての者は、相当な理由なしに、単に告発がなされたことのみをもって、当該被告発者に対して不利益な取扱いをしてはならない。
2. 代表取締役社長は、相当な理由なしに、被告発者に対して不利益な取扱いを行った者がいた場合は、就業規則及び賞罰委員会規程に従って、その者に対して処分を課することができる。
3. 代表取締役社長は、相当な理由なしに、単に告発がなされたことのみをもって、当該被告発者の研究活動の全面的な禁止、解雇、配置換え、懲戒処分、降格、減給その他当該被告発者に不利益な措置等を行ってはならない。

第17条（悪意に基づく告発）

1. 何人も、悪意に基づく告発を行ってはならない。本規程において、悪意に基づく告発とは、被告発者を陥れるため又は被告発者の研究を妨害するため等、専ら被告発者に何らかの不利益を与えること又は被告発者が所属する組織等に不利益を与えることを目的とする告発をいう。
2. 代表取締役社長は、悪意に基づく告発であったことが判明した場合は、当該告発者の氏名の公表、懲戒処分、刑事告発その他必要な措置を講じることができる。
3. 代表取締役社長は、前項の処分が課されたときは、該当する資金配分機関及び関係省庁に対して、その措置の内容等を通知する。

第5章 事案の調査

第18条（調査の決定等）

1. 第10条に基づく告発があった場合又は株式会社ウェザーニューズがその他の理由により調査の必要を認めた場合は、代表取締役社長は原則30日以内に調査委員会を設置し、速やかに調査を実施しなければならない。
2. 代表取締役社長は、調査を実施することを決定したときは、告発者及び被告発者に対して調査を行う旨を通知し、調査への協力を求める。
3. 代表取締役社長は、調査を実施することを決定したときは、当該事案に係る研究費の資金配分機関及び関係省庁に、調査を行う旨を報告するものとする。

第19条（調査委員会の設置）

1. 代表取締役社長は、調査を実施することを決定したときは、速やかに、調査委員会を設置する。
2. 調査委員会の委員の半数以上は、株式会社ウェザーニューズに属さない外部有識者でなければならない。また、全ての調査委員は、告発者及び被告発者と直接の利害関係を有しない者でなければならない。
3. 調査委員会の委員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 代表取締役社長が指名した者 若干名
- (2) 研究分野の知見を有する者 若干名
- (3) 法律の知識を有する外部有識者 若干名

第20条（調査の通知）

1. 代表取締役社長は、調査委員会を設置したときは、調査委員会委員の氏名及び所属を告発者及び被告発者に通知する。
2. 前項の通知を受けた告発者又は被告発者は、当該通知を受けた日から起算して7日以内に、書面により、代表取締役社長に対して調査委員会委員に関する異議を申し立てることができる。

3. 代表取締役社長は、前項の異議申立てがあった場合は、当該異議申立ての内容を審査し、その内容が妥当であると判断したときは、当該異議申立てに係る調査委員会委員を交代させるとともに、その旨を告発者及び被告発者に通知する。

第21条（調査の実施）

1. 調査委員会は、調査の実施の決定があった日から起算して30日以内に、調査を開始するものとする。
2. 調査委員会は、告発者及び被告発者に対し、直ちに、調査を行うことを通知し、調査への協力を求めるものとする。
3. 調査委員会は、告発において指摘された当該研究に係る論文、実験・観察ノート、生データその他資料の精査及び関係者のヒアリング等の方法により、調査を行うものとする。
4. 調査委員会は、被告発者による弁明の機会を設けなければならない。
5. 調査委員会は、被告発者に対し、再実験等の方法によって再現性を示すことを求めることができる。また、被告発者から再実験等の申し出があり、調査委員会がその必要性を認める場合は、それに要する期間及び機会並びに機器の使用等を保障するものとする。
6. 告発者、被告発者及びその他当該告発に係る事案に関係する者は、調査が円滑に実施できるよう積極的に協力し、真実を忠実に述べるなど、調査委員会の調査に誠実に協力しなければならない。

第22条（調査の対象）

調査の対象は、告発された事案に係る研究活動の他、調査委員会の判断により、調査に関連した被告発者の他の研究を含めることができる。

第23条（証拠の保全）

1. 調査委員会は、調査を実施するに当たって、告発された事案に係る研究活動に関して、証拠となる資料及びその他関係書類を保全する措置をとるものとする。
2. 告発された事案に係る研究活動が行われた研究機関が株式会社ウェザーニューズでないときは、調査委員会は、告発された事案に係る研究活動に関して、証拠となる資料及びその他関係書類を保全する措置をとるよう、当該研究機関に依頼するものとする。
3. 調査委員会は、前2項の措置に必要な場合を除き、被告発者の研究活動を制限してはならない。

第24条（調査の中間報告）

代表取締役社長は、調査の終了前であっても、告発された事案に係る研究活動の予算の配分又は措置をした資金配分機関又は関係省庁の求めに応じ、調査の中間報告を当該資金配分機関及び関係省庁に提出するものとする。

第25条（調査における研究又は技術上の情報の保護）

調査委員会は、調査に当たっては、調査対象における公表前のデータ、論文等の研究又は技術上秘密とすべき情報が、調査の遂行上必要な範囲外に漏洩することのないよう、十分配慮するものとする。

第26条（不正行為の疑惑への説明責任）

1. 調査委員会の調査において、被告発者が告発された事案に係る研究活動に関する疑惑を晴らそうとする場合には、自己の責任において、当該研究活動が科学的に適正な方法及び手続にのっとり行われたこと、並びに論文等もそれに基づいて適切な表現で書かれたものであることを、科学的根拠を示して説明しなければならない。
2. 前項の場合において、再実験等を必要とするときは、第21条第5項の定める保障を与えなければならない。

第6章 不正行為等の認定

第27条（認定の手續）

1. 調査委員会は、調査を開始した日から起算して150日以内に調査した内容をまとめ、不正行為が行われたか否か、不正行為と認定された場合はその内容及び悪質性、不正行為に関与した者とその関与の度合、不正行為と認定された研究に係る論文等の各著者の当該論文等及び当該研究における役割、その他必要な事項を認定する。
2. 前項に掲げる期間につき、150日以内に認定を行うことができない合理的な理由がある場合は、その理由及び認定の予定日を付して代表取締役社長に申し出て、その承認を得るものとする。
3. 調査委員会は、不正行為が行われなかったと認定される場合において、調査を通じて告発が悪意に基づくものであると判断したときは、併せて、その旨の認定を行うものとする。
4. 前項の認定を行うに当たっては、告発者に弁明の機会を与えなければならない。
5. 調査委員会は、本条第1項及び第3項に定める認定が終了したときは、直ちに、代表取締役社長に報告しなければならない。

第28条（認定の方法）

1. 調査委員会は、告発者から説明を受けるとともに、調査によって得られた、物的・科学的証拠、証言、被告発者の自認等の諸証拠を総合的に判断して、不正行為か否かの認定を行うものとする。
2. 調査委員会は、被告発者による自認を唯一の証拠として不正行為を認定することはできない。
3. 調査委員会は、被告発者の説明及びその他の証拠によって、不正行為であるとの疑いを覆すことができないときは、不正行為と認定することができる。保存義務期間の範囲に属する生データ、実験・観察ノート、実験試料・試薬及び関係書類等の不存等、本来存在すべき基本的な要素が不足していることにより、被告発者が不正行為であるとの疑いを覆すに足る証拠を示せないときも、同様とする。

第29条（調査結果の通知及び報告）

1. 代表取締役社長は、速やかに、調査結果（認定を含む。）を告発者、被告発者及び被告発者以外で研究活動上の不正行為に関与したと認定された者に通知するものとする。被告発者が株式会社ウェザーニューズ以外の機関に所属している場合は、その所属機関にも通知する。
2. 代表取締役社長は、前項の通知に加えて、調査結果を当該事案に係る資金配分機関及び関係省庁に報告するものとする。
3. 代表取締役社長は、悪意に基づく告発との認定があった場合において、告発者が株式会社ウェザーニューズ以外の機関に所属しているときは、当該所属機関にも通知するものとする。

第30条（不服申立て）

1. 研究活動上の不正行為が行われたものと認定された被告発者は、通知を受けた日から起算して14日以内に、調査委員会に対して不服申立てをすることができる。ただし、その期間内であっても、同一理由による不服申立てを繰り返すことはできない。
2. 告発が悪意に基づくものと認定された被告発者（被告発者の不服申立ての審議の段階で悪意に基づく告発と認定された者を含む。）は、その認定について、第1項の例により、不服申立てをすることができる。
3. 不服申立ての審査は、調査委員会が行う。代表取締役は、新たに専門性を要する判断が必要となる場合は、調査委員の交代若しくは追加、又は調査委員会に代えて他の者に審査をさせるものとする。ただし、調査委員会の構成の変更等を行う相当の理由がないと認めるときは、この限りでない。
4. 前項に定める新たな調査委員は、第19条第2項及び第3項に準じて指名するとともに、第20条各号に準じた手續を行う。
5. 調査委員会は、当該事案の再調査を行うまでもなく、不服申立てを却下すべきものと決定した場合には、直ちに、代表取締役社長に報告する。報告を受けた代表取締役は、不服申立人に対し、その決定を通知するものとする。その際、その不服申立てが当該事案の引き延ばしや認定に伴う各措置の先送りを主な目的とするものと調査委員会が判断した場合は、以後の不服申立てを受け付けないことを併せて通知するものとする。
6. 調査委員会は、不服申立てに対して再調査を行う旨を決定した場合には、直ちに、代表取締役に報告する。報告を受けた代表取締役社長は、不服申立人に対し、その決定を通知するものとする。

7. 代表取締役社長は、被告発者から不服申立てがあったときは告発者に対して通知し、告発者から不服申立てがあったときは被告発者に対して通知するものとする。また、その事案に係る資金配分機関及び関係省庁に通知する。不服申立ての却下又は再調査開始の決定をしたときも同様とする。

第31条（再調査）

1. 前条に基づく不服申立てについて、再調査を実施する決定をした場合には、調査委員会は、不服申立人に対し、先の調査結果を覆すに足るものと不服申立人が思料する資料の提出を求め、その他当該事案の速やかな解決に向けて、再調査に協力することを求めるものとする。
2. 前項に定める不服申立人からの協力が得られない場合には、調査委員会は、再調査を行うことなく手続を打ち切ることができる。その場合には、調査委員会は、直ちに代表取締役役に報告する。報告を受けた代表取締役社長は、不服申立人に対し、その決定を通知するものとする。
3. 調査委員会は、再調査を開始した場合には、その開始の日から起算して50日以内に、先の調査結果を覆すか否かを決定し、その結果を直ちに代表取締役役に報告するものとする。ただし50日以内に調査結果を覆すか否かの決定ができない合理的な理由がある場合は、その理由及び決定予定日を付して代表取締役社長に申し出て、その承認を得るものとする。
4. 代表取締役社長は、本条第2項又は第3項の報告に基づき、速やかに、再調査の結果を告発者、被告発者及び被告発者以外で研究活動上の不正行為に関与したと認定された者に通知するものとする。被告発者及び被告発者以外で研究活動上の不正行為に関与したと認定された者が株式会社ウェザーニューズ以外の機関に所属している場合は、その所属機関にも通知する。また、当該事案に係る資金配分機関及び関係省庁に報告する。

第32条（調査結果の公表）

1. 代表取締役社長は、研究活動上の不正行為が行われたとの認定がなされた場合には、速やかに、調査結果を公表するものとする。
2. 前項の公表における公表内容は、研究活動上の不正行為に関与した者の氏名・所属、研究活動上の不正行為の内容、株式会社ウェザーニューズが公表時までに行った措置の内容、調査委員会委員の氏名・所属、調査の方法・手順等を含むものとする。
3. 前項の規定にかかわらず、研究活動上の不正行為があったと認定された論文等が、告発がなされる前に取り下げられていたときは、当該不正行為に関与した者の氏名・所属を公表しないことができる。
4. 研究活動上の不正行為が行われなかったとの認定がなされた場合には、調査結果を公表しないことができる。ただし、被告発者の名誉を回復する必要があると認められる場合、調査事案が外部に漏洩していた場合又は論文等に故意若しくは研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによるものでない誤りがあった場合は、調査結果を公表するものとする。
5. 前項ただし書きの公表における公表内容は、研究活動上の不正行為がなかったこと、論文等に故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによるものではない誤りがあったこと、被告発者の氏名・所属、調査委員会委員の氏名・所属、調査の方法・手順等を含むものとする。
6. 代表取締役社長は、悪意に基づく告発が行われたとの認定がなされた場合には、告発者の氏名・所属、悪意に基づく告発と認定した理由、調査委員会委員の氏名・所属、調査の方法・手順等を公表する。

第7章 措置及び処分

第33条（調査中における一時的措置）

1. 代表取締役社長は、調査を行うことを決定したときから調査委員会の調査結果の報告を受けるまでの間、被告発者に対して告発された研究費の一時的な支出停止等の必要な措置を講じることができる。
2. 代表取締役社長は、資金配分機関又は関係機関から、被告発者の該当する研究費の支出停止等を命じられた場合には、それに応じた措置を講じるものとする。

第34条（研究費の使用中止）

代表取締役社長は、研究活動上の不正行為に関与したと認定された者、研究活動上の不正行為が認定された論文等の内容に重大な責任を負う者として認定された者及び研究費の全部又は一部について使用上の責任を負う者として認定された者(以下「被認定者」という。)に対して、直ちに研究費の使用中止を命ずるものとする。

第35条 (論文等の取下げ等の勧告)

1. 代表取締役社長は、被認定者に対して、研究活動上の不正行為と認定された論文等の取下げ、訂正又はその他の措置を勧告するものとする
2. 被認定者は、前項の勧告を受けた日から起算して14日以内に勧告に応ずるか否かの意思表示を代表取締役社長に行わなければならない。
3. 代表取締役社長は、被認定者が第1項の勧告に応じない場合は、その事実を公表するものとする。

第36条 (措置の解除等)

1. 代表取締役社長は、研究活動上の不正行為が行われなかったものと認定された場合は、調査に際してとった研究費の支出停止等の措置を解除するものとする。また、証拠保全の措置については、不服申立てがないまま申立期間が経過した後又は不服申立ての審査結果が確定した後、速やかに解除する。
2. 代表取締役社長は、研究活動上の不正行為を行わなかったと認定された者の名誉を回復する措置及び不利益が生じないための措置を講じるものとする。

第37条 (処分)

1. 代表取締役社長は、調査の結果、研究活動上の不正行為が行われたものと認定された場合は、被認定者に対して、法令、就業規則その他関係諸規程に従って、処分を課すものとする。
2. 代表取締役社長は、前項の処分が課されたときは、該当する資金配分機関及び関係省庁に対して、その処分の内容等を通知する。

第38条 (是正措置等)

1. 調査の結果、研究活動上の不正行為が行われたものと認定された場合には、代表取締役社長は、必要に応じて、速やかに是正措置、再発防止措置、その他必要な環境整備措置(以下「是正措置等」という。)をとるものとする。
2. 代表取締役社長は、関係する部局責任者に対し、是正措置等をとることを命ずることができる。
3. 代表取締役社長は、第1項及び第2項に基づいてとった是正措置等の内容を該当する資金配分機関及び関係省庁に対して報告するものとする。

第39条 (情報発信・共有化の推進)

1. 相談窓口において公的資金の使用に関するルール等について社内外からの 相談を受け付ける。
2. 本規程は株式会社ウェザーニューズホームページ上で公表する。

第40条 (公的研究費に関する発注)

文部科学省から助成を受ける公的研究費に関する取引初回時には、業者に対し誓約書の提出を求める。

第41条 (モニタリングの在り方)

公的資金の適正な運営及び管理(研究活動上の不正行為ならびに公的資金の不正使用の防止)を徹底するため、コンプライアンス推進責任者・部局責任者・研究者等およびF-Center(経理部門)は、日常的にモニタリングを実施し不正の防止に努めるものとする。

第42条 (内部監査)

1. 内部監査室は、内部監査規程に定めるところにより、毎年定期的に公的資金の監査を実施する。
2. 内部監査の実施にあたっては、研究者及び部局責任者は協力するものとする。
3. 上記各項の内部監査を実施する際、必要に応じて取引業者に帳簿の提出又は帳簿の照合を求めるものとする。

(附則)

この規程は、2022年1月24日から施行するものとする。

改定 2022年6月13日 (社内規程の一斉見直しを実施)

改定 2024年6月10日 (社内規程の一斉見直しを実施)

改定 2025年5月26日 (社内規程の一斉見直しを実施)

(別紙)

公的資金・公的研究費等の運営・管理に関する誓約書

サービス統括主責任者 殿

私は、研究倫理に関するコンプライアンス教育を受講し、「株式会社ウェザーニューズにおける研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」「Weathernewsグループ行動規範」の内容を理解し、研究費を使用、執行するにあたり関連規程、研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン、研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを遵守いたします。

また、国民の貴重な税金で賄われていることを十分認識し、公正かつ効率的な使用、管理を行い、運営、管理に携わる者として、公的資金・公的研究費の不正使用を行わないこととし、万が一、不正を行った場合は、株式会社ウェザーニューズや配分機関の処分及び法的な責任を負うことを約束いたします。

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」「研究機関における公的資金の管理・監査のガイドライン」、「株式会社ウェザーニューズにおける研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」「Weathernews グループ 行動規範」等、公的資金・公的研究費に関する規程・ルールを理解し、これを遵守します。

公的資金・公的研究費等は適正に運営・管理し、不正を行わず、関与もしません。

規則等に違反して不正を行った場合は、株式会社ウェザーニューズ及び公的資金・公的研究費等の配分機関による処分の対象となり、法的責任を負担します。

____年 ____月 ____日

※日付は記入日をご記入ください。

所属

氏名(自書)

印